

保険薬局における『くすりの絵文字「ピクトグラム」』の活用について

東京都 くすりの適正使用協議会 ○海老原格、松田偉太郎、米澤晴子、谷村千秋

患者さんの飲み忘れや誤飲がなくなるのが現実である。これは患者さんだけではなく、医療にかかわる全員の課題であることといえる。

その改善策として今回、保険薬局の店頭で、くすりの説明書や薬袋を用いて「文字情報」主体の服薬ケアおよび患者さんとのコミュニケーションをとられている薬剤師を対象に、ピクトグラムの認知度、使い勝手、活用の意思などを調査した。



活用のポイント

- ①患者・医療消費者(=国民)と薬剤師にとって、医薬品適正使用に資するケアマークであるとの共通認識を浸透させる。
- ②シールタイプのもの、スタンプ(刻印)タイプのもの、また薬袋・薬剤情報書へのダイレクト印刷など多くの種類が用意されていることを広報する。
- ③薬剤師が患者さんとの薬の適正使用へのコミュニケーションのツールとしても活用できることを広報する。
- ④活用事例について、患者さんの年齢別、医薬品別等に分類し、活用状況を分析しその結果を公表する。

アンケート調査方法

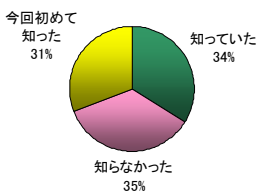
目的: 認知度、使い勝手、活用の意思を知り、今後の活動の展開へ繋げる
対象: 有限責任中間法人日本保険薬局協会会員245社(5,879店舗)
方法: よく使われるピクトグラム10種類とアンケート用紙を配布
期間: 2008年2月～6月
回答数: 204店舗

結果

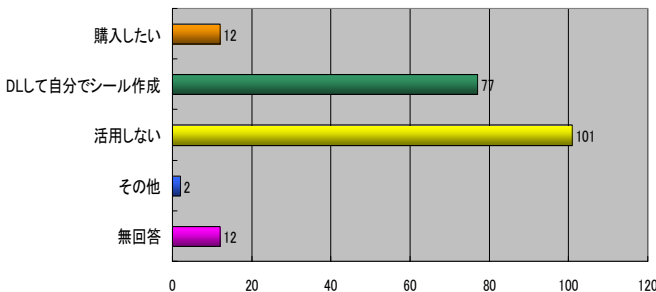
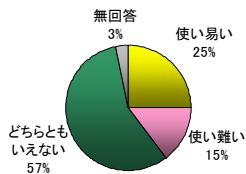
ピクトグラムを「知っていた」のは34%で、「使い易い」が「使い難い」を上回ったが、大半が「どちらともいえない」であった。

今後「活用しない」のは50%で、理由として、「絵のわかりやすさ」、「手間・時間」に関するものが多くみられた。

ピクトグラムを知っていましたか? (n=204)



使ってみてどうですか? (n=204)



ピクトグラムを活用しますか? (n=204)

「購入したい」と「ダウンロードして自分でシールを作成する」が約40%で、「活用しない」と相半ばした。